

福岡・金光寺跡推定地

こんこうじ

- 1 所在地 福岡県太宰府市大字観世音寺字今光寺
- 2 調査期間 一九八五年(昭60)一〇月～一九八六年三月
- 3 発掘機関 九州歴史資料館
- 4 調査担当者 代表 石松好雄
- 5 遺跡の種類 寺院跡あるいは居館跡
- 6 遺跡の年代 室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(太宰府)

この遺跡は、特別史跡大野城跡で知られる四王寺山脈の南麓に位置し、国指定史跡観世音寺境内および子院跡の一部でもある。観世音寺の子院四九院の一つである金光寺の跡に比定されるが、発掘調査の結果からは居館跡の可能性も考えられる。

一九五三年に九州文化総合研究所によって一部が調査され、九州歴史資料館も一九七八・七九の両年度に

調査を実施した。その結果、五棟の礎石建物や池などを検出し、二四点の中世木簡を含む多彩な遺物が出土した。今回の調査では礎石建物や溝などの遺構を検出し、土器・陶磁器をはじめとする各種の遺物が出土したが、なかでも土製仏像残欠や銅銭の中に「貨泉」が含まれていた点は注目される。時期は一三世紀後半から一六世紀前半までに比定され、この間は大きく三期に分けられる。なお、一九八七年度の西隣地区での調査では一四、五世紀頃と推定される石塔群からなる墓所と火葬所の遺構を検出したが、石塔の中には応永四年(一三九七)銘の宝篋印塔が含まれていた。

8 木簡の釈文・内容

Ⅱ期(二四世紀代)に属する礎石建物跡の上面をおおう腐植土層から八点の木簡が出土した。形態的には〇一一型式と〇一九型式が各一点、〇三三型式が四点、〇八一型式が二点に分類できるが、後掲の一点を除けば、〇三三型式の一点には墨痕が認められず、他の六点は腐蝕や不鮮明などの理由によって判読不可能である。

(1) 「三」

64×9×4 011

9 関係文献

九州歴史資料館『大宰府史跡 昭和六二年度発掘調査概報』(一九八八年)
倉住靖彦「金光寺跡」『木簡研究』第二号 一九八〇年 (倉住靖彦)